



多摩交流センターだより

インターネット
放送による

多摩発・遠隔生涯学習講座

NPO法人全国生涯学習ネットワーク・公益財団法人東京市町村自治調査会共催
後援：武蔵野市教育委員会

7・8月開催予定の講座案内



173回 題名 体験の大切さを実物で学ぼうよ

日時 平成30年7月12日(木) 14:30から約1時間

講師 高原 北雄 氏(NPO法人全国生涯学習ネットワーク会長・元名古屋大学教授・元航空宇宙技術研究所部長)

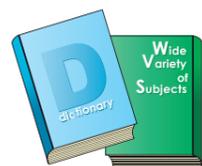
内容 72年前に誕生した真空管式の電子計算機は、今や関連電子機器の技術進歩により人間の能力を遥かに超え、社会は激変し始めています。これからの未来社会に対応するために今回の講義では、多くの実物を使い、科学マジック風に「体験学習の大切さ」を会得しながら、これからの生涯学習について考えるきっかけにしたいと思います。

174回 題名 日本画と旅 日時 平成30年8月9日(木) 14:30から約1時間
講師 安東 路翠 氏(日本画家)

- 受講料 無料(ただし資料代100円)
- メイン会場 多摩交流センター 第2会議室(申込みは必要ありません。直接会場にお越しください。)
- サテライト会場 武蔵野市かたらいの道
- ライブ中継・VOD視聴について

多摩発・遠隔生涯学習講座のホームページ(<http://zsgn.dp-21.net/tsgn/>)から無料で、当日の講座の視聴(ライブ中継)や過去の講座を視聴(VOD視聴)することができます。

問合せ先 TEL 070-2648-3520(高原) TEL 042-252-0908(菅原)



特定非営利活動法人 東京雑学大学

平成30年8月講義案内

(受講料は会員無料・会員外は8月9日を除き、1回500円)

番号	日時	講義テーマ	教授	会場
第1143回	8月2日(木) 14:00から	万葉集に歌われた東国	小野 寛 氏 (駒沢大学名誉教授・高岡市万葉歴史館名誉館長)	田無公民館 (西武新宿線田無駅南口 徒歩3分)
第1144回 ※	8月9日(木) 14:30から	日本画と旅	安東 路翠 氏 (日本画家)	遠隔視聴(サテライト)会場 武蔵野市かたらいの道 (JR三鷹駅北口 徒歩3分)
第1145回	8月16日(木) 14:00から	イザベラ・バードを辿る	岡田 常義 氏 (元ポリプラスチック(株)常務執行役員)	田無公民館 (西武新宿線田無駅南口 徒歩3分)
第1146回	8月23日(木) 14:00から	日本のライフスタイル～ 住居と都市の在り方について	棚橋 廣夫 氏 (株)エーディーネットワーク建築研究所 代表取締役	柳沢公民館 (西武新宿線西武柳沢駅南口 徒歩1分)

☆申込みは必要ありません。直接会場へお越しください。
※第1144回は、第174回多摩発・遠隔生涯学習講座と共同で実施します。メイン会場は多摩交流センターです。
問合せ先 TEL 042-465-3741(浅田) TEL 042-252-0908(菅原)

TAMA市民塾・日曜講座のお知らせ

第114回 山歩きでおきる虫刺されを防ぐ

【講師】 秦 和寿 氏

山地の有害昆虫や虫刺されを調査対象とし30年以上を経る。日本山岳会医療委員会委員(衛生動物部門)、日本有害生物研究会常任幹事、山の自然学クラブ理事

【内容】 山歩きで虫に襲われたことはありませんか？

日本の山は美しいですが、予期せず、虫に刺されることがあります。特にスズメバチ、マダニやブユ等による被害はアレルギー反応をおこし深刻です。虫害をどう防ぐか。山の有害昆虫類の標本を提示し、虫の被害を防ぐための防虫具や応急処置法を示します。また伝統的な防虫法についても江戸時代の古典籍を紹介し、虫のことを頭の隅にでも入れておけば、いざと言う時にあわてないですみます。

日時 平成30年7月22日(日) 14:00～16:00

場所 多摩交流センター会議室 京王線府中駅北口府中駅北第2庁舎6階(府中市寿町1-5-1)

申込方法 当日会場にお越しください。先着50名までとさせていただきます。

受講料 無料

問合せ先 多摩交流センター内 TAMA市民塾 TEL 042-335-0111



「多摩交流センターだより」の問合せ先

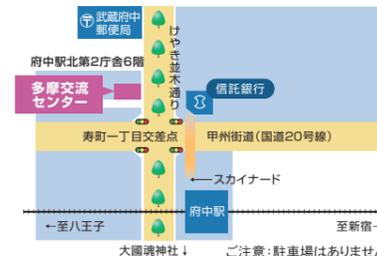
(公財)東京市町村自治調査会 多摩交流センター

〒183-0056 府中市寿町1-5-1 府中駅北第2庁舎6階

TEL 042-335-0100 FAX 042-335-0127

ホームページ <http://www.tama-100.or.jp/>(当調査会ホームページ内にコンテンツがあります)

☆多摩交流センターは、広域的市民ネットワーク活動の支援、多摩地域市民交流の場の提供等を目的として活動しています。



編集後記

○ 待望の夏が来ました。ぐるり39の夏季号(7～9月)の表紙と最終面の「とっておきフォトスポット」は、東京の島しょ町村を紹介し、美しい島の景色が誌面を飾ります。

今季のトップバッターは新島村の式根島です。東京とは思えないほどの美しい海の風景です。是非、皆さんも、東京の島々を夏休み旅行の候補地に加えてみてください。

先日、隔年で開催される島のイベント、東京愛らんどフェア「島じまん2018」が竹芝桟橋で開催され、2日間で集客数が約11万人となる盛況ぶりでした。イベントの詳細は本文6ページをご覧ください。

○ さて、2ページのお知らせのとおり、当調査会では7月23日(月)に、「府中市市民活動センタープラッツバルトホール」で調査研究結果発表シンポジウムを開催いたします。今回のテーマは『地域戦略としての多文化共生～経済分野と防災分野の取組から～』です。

東京オリンピック・パラリンピックを目前に控え、外国人住民や外国人旅行者は増加の一途を辿っています。一方、人口減少と少子高齢化が進行するなか、これからは外国人住民を労働力としてだけでなく、地域活性化の担い手として捉える必要があります。

○ 昨年、群馬大学の結城恵教授による「多文化共生から

ダイバーシティへ」という講演を聞く機会がありました。講演で気づかされた点は、「日本社会のルールは変えない前提で、外国人にそれがどう受け取られるかは考えていない」、「外国人のもつ力を引き出し、支援する発想がない」、「文化や価値観が異なる外国人の存在は、日本社会の課題解決の糸口になり得る」というものでした。

○ 人は往々にして、他者との違いや差異・比較からしか自らを認識できない場合があり、さらに、「日本の常識は世界の非常識」という言葉まであります。

多文化共生や外国人支援を実践している人達に共通するのは、支援されている側の外国人から、逆に多くの気づきを与えてもらっているという視点です。

○ シンポジウムでは、地域在住の外国人住民を単なる支援の対象としてではなく、地域で活躍する人材として捉え、そうなるための様々な取組を紹介いたします。また、その前提となる自治体や地域の先進的な取組事例などもお伝えいたします。

国際化や多文化共生、ダイバーシティのまちづくりを進めている東京の市町村に、参考やヒントとなる活動や取組をご紹介できると考えています。

多数の皆様がシンポジウムにご来場くださいますよう、お待ちしております。

(M.N)